ただいま子育て奮闘中！女性・科学者としての妻の人生をサポートしていきたい。

長女の次は、なんと双子を授かり、嬉しさも２倍ながら、大変さも２倍。

子どもと遊ぶことは、子どもの知的教育になるとともに、妻に自由な時間を作ることになる。

Time Schedule

11:00	起床・出勤
–	
–	
–	
19:30	帰宅
20:00~	ミルクの授乳
21:00	（3 時間ごと）
–	
24:00~	ミルクの授乳
01:00	
–	
03:00	ミルクの授乳、就寝

※ミルクは、朝・昼が妻と義母、夜は私が頑張ります。

自然科学でのアプローチの仕方を伝えたい

私は、2002 年に 35 歳で信州大学に赴任しました。45 歳まで独身で、冬になると水道も凍る古い官舎に住んでいたのですが、植物生態学を研究しているので、信州は研究環境としては材料に事欠かない、すばらしいところです。

植物生態学では、生態系を考えたとき植物はその土台になりますが、植物とチョウ、草原とノウサギなど、植物と様々なものの関係がテーマになってきます。私の研究室では、その関係を見つけ出し、問題点を解決していって結論を導き出す、ということを学生たちにやってもらっています。また、たとえ卒業論文であっても、学生の名前で印刷物にして世に出るように心がけています。

それでも研究者になるのはごく一握りで、大半は就職をして一般社会に出ていきます。ですが、どの世界にいっても自然科学のアプローチは必ず役立つし、続けようと思えばフィールドワークは一生続けて楽しめます。私は、そういう人の手助けをしていきたいと思っています。

45歳で結婚、48歳で3児の父になる

45 歳まで独身で自由に生きてきた私ですが、3 年前に結婚して、いまや 2 歳と生まれたばかりの双子の親になりました。1 人暮らしから 5 人家族！ 一気に 5 倍です。ほんとうに人生は何があるかわかりません。

妻も動物・植物生態学をやっていましたが、今は 3 人の子育てで妻も私も毎日大変です。特に妻は、3 時間おきにミルクをあげないといけないので、実家から義母に来てもらって、義母と私が妻をサポートしています。

妻の自己実現をサポートしたい

最初の子どもが生まれる臨月の時に、彼女の実家のある佐渡に行ったのですが、その時に砂浜を歩いていて、偶然にも絶滅危惧種で新産地となるハマベノギクを発見するという奇跡の体験をしました。初めはその種が何なのか分からなかったのですがその後、図鑑で植物名を見つけたのは妻で、彼女のほうが研究者としてセンスがあるなあ、と実感しました。こんな子育てのなかでも、彼女は研究者としての活動も続けており、論文の準備をしていることに尊敬します。

植物で著名な方に、夫が植物の分類の専門で妻が写真を撮って、2 人で図鑑を出されている方がいらっしゃいますが、とてもうらやましいです。大学での研究もいいけれど、大学に属さずに自由に研究するのもいいかもしれません。研究者として論文を発表するのもいいし、ライフワークとして植物観察を続けていくのもいいでしょう。いろいろな形で妻の自己実現をサポートしていきたい、と思っています。

Focus!

専門は植物生態学。森林の維持、再生や、植物と動物との関わりなどにも興味を持ち、学生の要請から保全生態学分野の研究に軸足を移しつつある。 妻と一緒に自然観察や旅行を楽しむ。将来は子どもとも。どんな土地に行ってもそこに出現するすべての植物を理解しようとするのは、職業病。

学生へのメッセージ

研究者になることだけを目指して理系学部に進学する必要はないと思っています。だからといって勉強をしなくていいというわけではありません。

自分が見つけたテーマにアプローチしていくこと、それだけで物事を見る目を養うことができます。それが勉強だけでは身につけられない大事なことだと思います。自然を見る目、科学的な姿勢と思考……そういうものを身に付けた人が一般社会に出て活躍できることが大事です。人生を生きていくうえでもいつかきっと役に立つ時が来るはずです。もしかしたら未来を変えることもできるかもしれません。

植物生態学は、アマチュアでも一生つづけていける分野です。それぞれのやり方で、ずっと興味を持ち続けていってほしいですね。

妻の故郷をたずねた際に新潟県内で新産地を発見した絶滅危惧種、ハマベノギク。

島野 光司 Koji Shimano

学術研究院准教授（理学系）
（理学部 理学科 物質循環学コース 生態システム解析分野 准教授）

千葉県生まれ。千葉大学園芸学部卒。同大学院園芸学研究科修了。同大学院自然科学研究科修了、博士（学術）を取得。横浜国立大学環境科学研究センター研究機関研究員（講師）、電力中央研究所応用生物部特別契約研究員、国士舘大学政経学部二部非常勤講師を併任。以上を経て 2002 年に信州大学理学部物質循環学科に助教授として着任。

インタビュー：平成27年12月